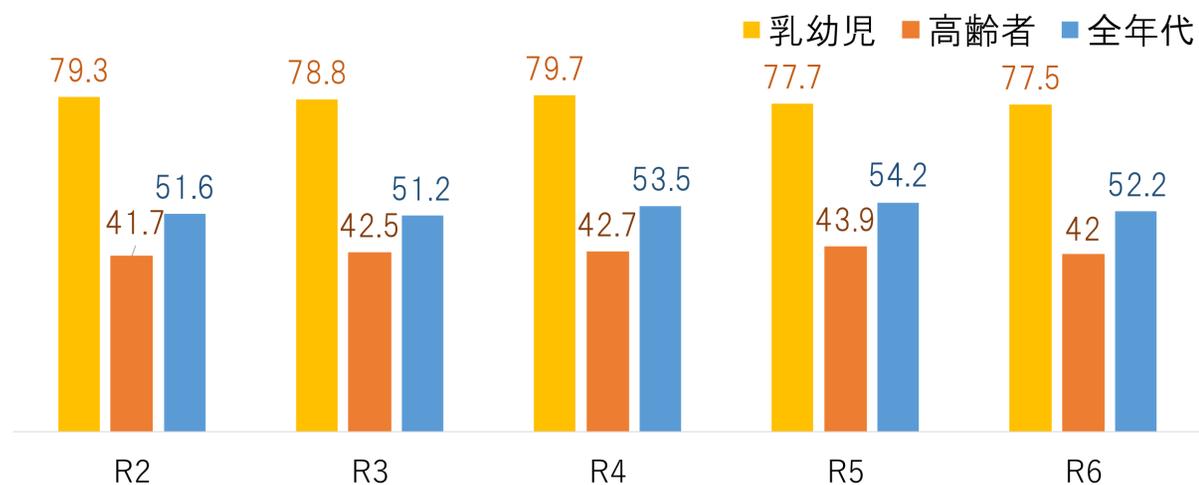


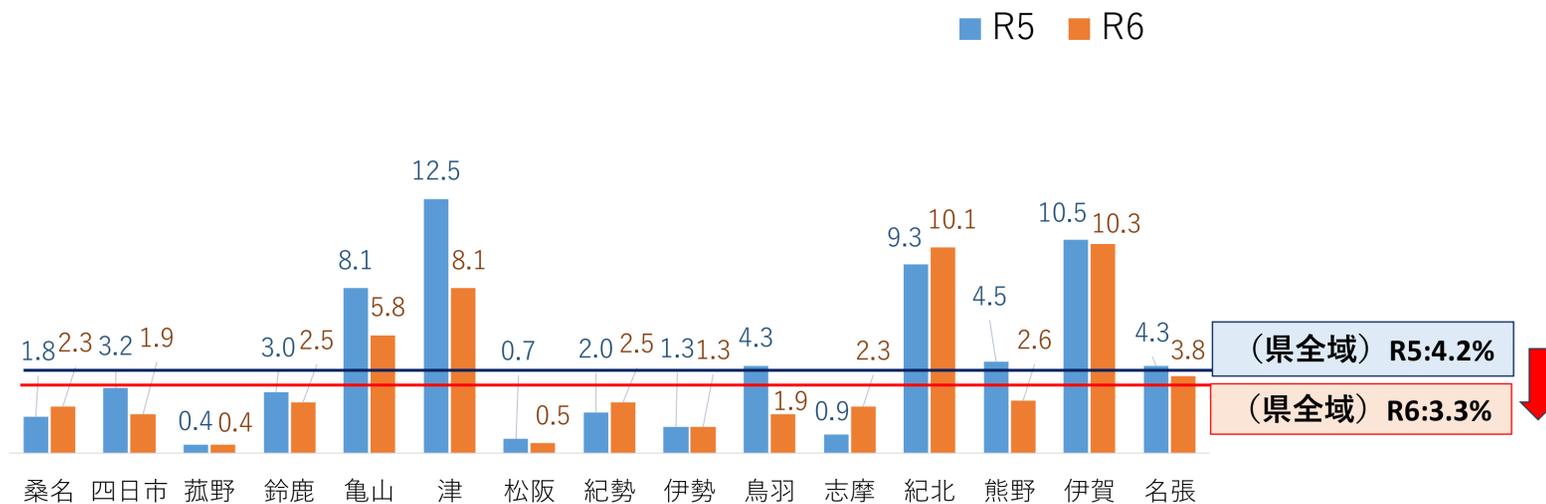
## ○救急医療対策の主な指標の進捗状況および課題

資料 1 - 2

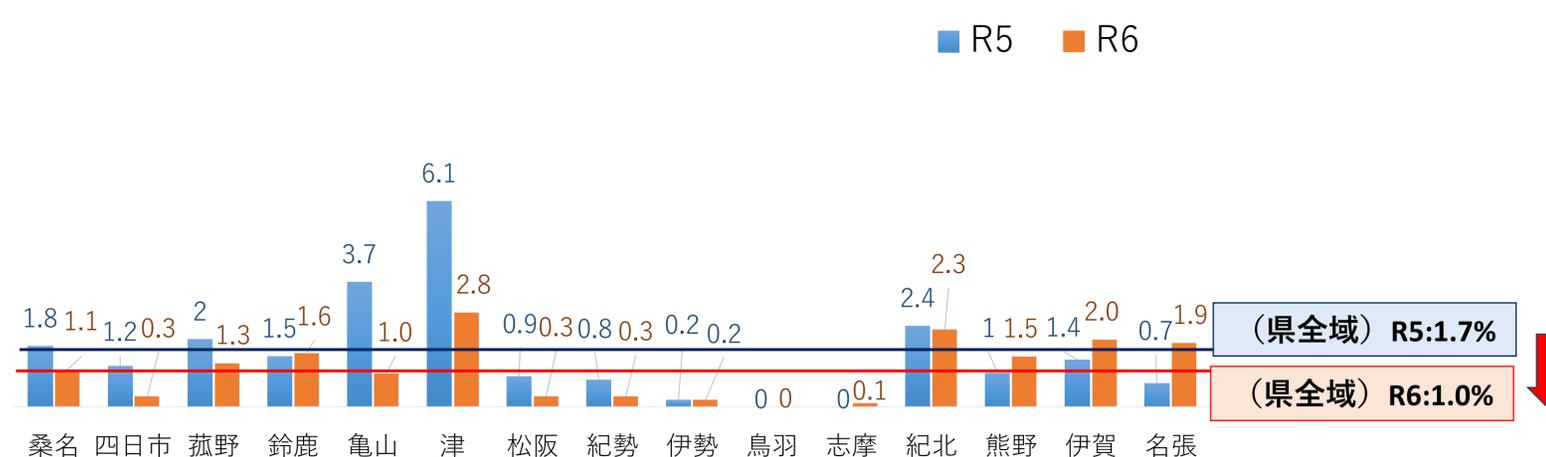
【指標：救急搬送患者のうち、傷病程度が軽症であった人の割合（％）】



【指標：消防本部別の現場滞在時間30分以上の割合（重症以上案件）（％）】



【指標：消防本部別の4回以上医療機関に受入要請を行った割合（重症以上案件）（％）】



○現状及び今後の課題

- 救急搬送患者のうち、傷病程度が軽症であった人の割合は、令和5年の54.2%から、令和6年は52.2%と2%減少しましたが、症状の程度が軽度な患者であっても第二次救急医療機関を受診する傾向があるため、今後も引き続き、県民の適切な受診行動を促進することが必要です。
- また、救急搬送患者のうち、高齢者に限定した、傷病程度が軽症であった人の割合は、令和5年の43.9%から、令和6年は42.0%と、こちらも約2%減少しました。
- 「医療ネットみえ」の参加登録医療機関数を増やすなど、初期救急医療の受入態勢を確保することが必要です。

○現状及び今後の課題

- 数値目標「重症以上の事案における、救急車の現場滞在時間が30分以上の割合」については、津地域で第二次救急医療体制の強化が図られたことなどにより、計画策定時から改善がみられた地域が複数あり、県全体の現状は目標値と同値の3.3%となっています。

○現状及び今後の課題

- 数値目標「重症以上の事案における、4回以上医療機関に受入要請を行った割合」については、津地域で第二次救急医療体制の強化が図られたことなどにより、計画策定時から改善がみられた地域が複数あり、県全体の現状は1.0%で目標値の1.5%以下を達成しています。